

# つなぐ 川内

## むつ市川内町

人口：3,883人 平成30年10月1日現在  
(男1,869人 女2,014人)

野平を代表とする高原野菜からホタテ養殖をはじめとした水産業まで、農林水産資源にあふれる。川内川溪谷や湯野川温泉郷など、観光資源も豊富なまち。

人不足、若者不足と叫ばれる時代。高齢化していく一次産業のなかで、三代そろって漁に出る親子がいます。

川内町漁協所属の菊池さん親子。79歳の菊池昇さんから、息子の昭博さん、高校卒業後、漁師の道に入り4年が経つ孫の雄人さんです。

「小さい頃からじいちゃんや父さんの姿を見てきたから、漁師になるのはごく普通のことでした。うちホタテをメインにやっていますが、二人はもう何十年も漁師をやっている大先輩。やっぱりその背中は大変です。」

漁は朝5時半ころには海に出て、だいたい昼前に戻ります。昼からは道具の修理や明日の備え、漁に出られない日も陸での作業はたくさんあるので休みは少ないですが、やりがいがありますよ。日々、教えてもらうことも多く



のぼる 菊池昇さん



あきひろ 息子 菊池昭博さん



ゆうと 孫 菊池雄人さん

ありますが、漁師としての勘と技術は観て覚えなないと。褒められることはほとんどありませんね。」と苦笑いの雄人さん。着実に、川内の漁業の担い手として成長しています。

「大変うれしいです。」 担い手不足と言われるなか、自分の背中を見て育った息子が同じ漁師の道を選んでくれた喜びを、ぜひ一言で表現した昭博さん。

「漁師を継いでほしいなという気持ちは、まるつきり無かったわけじゃないけど、今の世の中、自分の好きなことをしてほしいなというのがあります。でも…、やっぱり漁師をやってほしいなって思ってたね。うれしかったですよ。」

伝えることは、まだまだいっぱいある。息子のことは、我が子であり、一漁業者であると感じているから毎日怒ってばかり。でも、自

慢の息子だ。一緒に酒？あんまり呑んでないなあ。仕事も一緒、家でも一緒だといまどきの『うざい』ってやつに思われちゃうもんな(笑)。適度な距離感でやっています。」と顔もほころぶ。二人のそばで、言葉少なに作業を続ける昇さんの笑顔にも、親子三代で仕事を続ける喜びを感じます。

昭博さん、川内のまちが今後どのようになっていくかと思いつく。 「やっぱり、若い人は増えてほしいなあ。それでも川内の漁師はここ数年で7、8人増えたんだけど、まだまだだ。担い手不足って言うけど、やっぱり中堅世代がどんどん良くならないと。若い世代の人たちは『漁師できない、したく

ない』っていうのがあると思うんですよ。わいどが良くなればおのずと若い世代も、息子たちの世代も、『やあ、うちの父さん、良いなあ』って言うて育ってくれるんじゃないかなと思うから、わいどが『漁師はいいぞ、地元で働くのはいいぞ』っていう姿を見せないとね。」

川内の海を、水産資源が豊富な「宝海」と呼ぶ昭博さん。自分たちの背中を見せ、息子を一人前の漁師に育てる「家族のつながり」は、水産業の明るい未来と発展を意味する「まちのつながり」に通じます。 家族のつながりがまちをつなげる。親子三代は、今日も漁に出ます。

海も森も、全部が大切な財産です。

## 漁師が木を植える理由



私たちが恩恵を受ける豊かな海の恵みと、山々との関係を知っていますか？

海にひろがる豊富な水産資源は、広大な森が生み出す栄養素が川によって海に送り届けられ育まれています。つまり、山は水産資源の源。山が元気になれば、海も元気になるとのことなのです。

豊かな海の恵みを将来にわたって守るため、川内町漁協の漁業関係者たちは、地域の子どもたちとともに、川内地区の山にブナやナラの木を植えています。

今年4月に行われた植樹は約300本。菊池さんたちは、この活動に参加しています。「このまちをつなぐ」ためには、こつこつ積み重ねる日頃の行動が大切です。



## 新 桧川荷捌所 建設中!!

川内町漁協では、桧川漁港の荷捌施設を新しく建設しています。稼働開始は来年！川内町の水産業の発展を市も応援します！



熱く燃えた祭りを終えた川内のまちにも秋の気配がおとずれ、まもなく寒い冬がやってきます。活気づく祭りの山車運行を目にしたが、「いつもこのくらいの若者が川内にくれたら」とつぶやいた女性がいました。 人口減少や若者の流出は、全国的にも大きな問題となり、当然のようにこのむつ下北にもその影を落としています。 「担い手」 産業においても、まちの風物詩においても、伝統においても。いま、その担い手が減少しています。 しかし、忘れてはいけません。築きあげてきた産業や、伝統まちへの愛着こそが、私達の生活を支えていることを。 「つながらない」と諦めるのではなく、「つなげなければ」とたくさんの人が思ったとき、何か新たな変化が始まるかもしれません。 特集つなぐ川内。今月は、川内町をつないでいる人、つなげたいと願う人たちをご紹介します。